

普段の活動

今年は4年生だけだったこともあり、各自卒業論文を書くことに専念しました。まず前期では、本を読むのに慣れるために輪読を行いながら、論文の引用の仕方についてなど論文の書き方についても少しずつ学んでいきました。また蒼天ホールにて、ドラムサークルに参加したりもしました。



輪読時に用いたテキスト

輪読では、仲原淳の「話し合いの作法」を用いました。普段の会話やグループディスカッションと照らし合わせながら、対話について深く議論し、話し合いました。



ドラムサークルの様子

ドラムサークルとは、ドラムを通して対話をするものです。ドラムのたたき方は自分の好きなリズムでよく、ほかの人がたたく音に合わせてたたき方を変えていました。体験した生徒からは、「相手のことをもっとよく知れた」、「失敗がないから積極的になれた」などの声が上がっていました。

卒論紹介

後期には、本格的に卒業論文に取り掛かりました。それぞれ、テーマに沿った内容を整理して書くことに悪戦苦闘しながらも何とか完成させることができました。以下が、書かれた卒業論文のテーマです。

介護と演劇 ～菅原直樹の活動と挑戦～

コーヒーの文化が人に与える影響

ボードゲームとフローの効果

宗教と儀式